

図5 現代の印刷字体の例 (コンピューター編集)

■ झुपा लाहिड़ी, 33 वर्ष ■

लेखिका

सार्वभौमिक आकर्षण

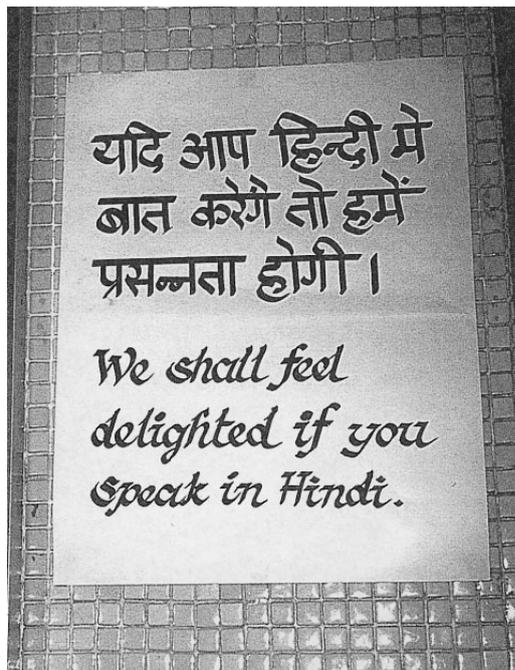
गत वर्ष न्यूयॉर्क में उनकी कई कहानियां छपने और इसी पत्रिका द्वारा अगली सहस्राब्दी में अमेरिका की सबसे संभावनाशील लेखिका के रूप में चुने जाने के साथ ही लगता है, लाहिड़ी हर जगह छा गई हैं. उनकी पहली पुस्तक इंटरप्रेटर ऑफ मैलेडीज़ (कहानी संग्रह) को 1999 में कुछ बेहतरीन समीक्षाएं मिलीं. प्रसिद्ध उपन्यासकार एमी टैन के मुताबिक, “वे ऐसी लेखिका हैं जो आपमें यह इच्छा पैदा करती हैं कि किसी व्यक्ति को पकड़कर उससे कहें कि ‘इसे पढ़ो!’... मैंने जितने बेहतरीन कथाकारों को पढ़ा है, लाहिड़ी उनमें से एक हैं.”

出典: हिन्दी-एंग्लो-इंडियन मगज़ीन 『इन्डिया-टुडे』
より.

素と膠着的な要素が混在している. 屈折的な要素とは, この語派が最初もっていた複雑な屈折語尾が歴史的音韻変化を経てかなり磨滅した痕跡である. 単数と複数, 主格と後置格を区別する語尾, 動詞の人称語尾などに残っている. 一方, 膠着的な要素は, 中期インド語派の時代から萌芽していた統語上の分析的な傾向が進んだ結果であり, 磨滅した屈折語尾に代わる文法的機能を担っている. 名詞では格語尾に代わる後置詞, 動詞ではテンス, モダリティ, 受動態などの機能を担う要素がそれに相当する.

分かち書きに関するヒन्दी語の近代正書法の変遷は, 同時代のヒन्दी語文法記述における屈折的要素と膠着的要素の扱い方にほぼ対応している. 20世紀初頭までの文法記述では, 屈折的要素と膠着的要素を区別せず, いずれも古典サンスクリットの屈折語尾に模した解説が主流であった.

分かち書きが十分進んだ今日のヒन्दी語正書法の特徴は, 屈折的要素は語の一部として分離せず, 膠着的要素は語の単位として明確に分離しているといえる.

図7 デリーの国際空港のレストラン入口にある
掲示

注) हिन्दी語使用を奨励する内容が, ヒन्दी語 (デーヴァナーガリー文字) と英語で併記されている.

これは, カームターブラサード・グル (Kāmtāprasād Guru) の 『ヒन्दी語文法』 (1920) 以降の文法記述とも合致している.

2) 語のレベル (綴りと発音) ヒन्दी語の綴りの標準化に関しては, 1900年1月に創刊したヒन्दी語総合月刊誌 『サラスワティー』 (Sarasvatī) と 1903年から1920年までこの雑誌の編集者であったマハーヴィールブラサード・ドゥヴィヴェーディー (Mahāvīrprasād Dvivedī, 1864-1938) の果たした役割が大きい. ドゥヴィヴェーディーは, 原稿中の当時無秩序であった綴

図6 コンピューターのキーボードのキー配列 (インド政府制定)

~	!	ॐ	@	₹	#	₹	\$	₹	%	ॐ	^	त्र	&	क्ष	*	श्र	()	_	ॐ	+ =	ॐ	BS
TAB	Q	औ	W	रे	E	आ	R	ई	T	ऊ	Y	भ	U	ड	l	घ	O	ध	P	झ	{ ढ }	ज	ऑ
CONTROL	A	ओ	S	ए	D	अ	F	इ	G	उ	H	फ	J	र	K	ख	L	थ	:	छ	"	ठ	RETURN
SHIFT	Z	X	ॐ	C	ण	V	ॐ	B	N	ळ	M	श	<	ष	>	।	?	/	ॐ	ॐ	ॐ	ॐ	SHIFT